おおさき今昔物語
大崎・このまちのルーツを訪ねて
その29

大崎の「夜明け」は、ここから始まった

再開発前の目黒川沿い工場群

過去から現在、未来へと受け継がれていく「ふるさと大崎」のDNA（原風景）を訪ねる『おおさき今昔物語』。
その第二十九話は、今から30年以上も前、“おおさき真っ暗”と揶揄された過渡期の時代から、晴れて再生を果たした副都心大崎の夜明けの記録。
天に向けて伸びる曙光の再開発ビルの足もとには、郷土大崎の豊かな歴史の土壌と、人々の新しいまちへの“熱い思い”のつながりがありました。

大崎ニューシティ
（大崎駅東口第1地区）施行地区
面積約3.0ha 1987年竣工
大崎ニューシティ竣工当時写真

1987〜

「大崎ニューシティ」竣工を端緒に副都心として生まれ変わった大崎のまち。都市再生緊急整備地域として指定された約60ヘクタールの「大崎駅周辺地域」に建つ再開発ビルが、新しく生まれた多くの公開空地や公共施設、さらに安全性と利便性の都市機能を通じて、“人とまちの新たなつながり”を築いていくこととなります。

大崎ニューシティ
（大崎駅東口第1地区）

ゲートシティ大崎
（大崎駅東口第2地区）

オーバルコート大崎
（東五反田二丁目第1地区）

アートヴィレッジ大崎
（大崎駅東口第3地区）

ThinkPark
（大崎駅西口E東地区）

大崎ウエストシティタワーズ
（大崎駅西口中地区）

東京サザンガーデン
（東五反田二丁目第2地区）

ソニーシティ大崎
（現NBF大崎ビル）（西口C地区）

大崎ウィズシティ
（大崎駅西口南地区）

パークシティ大崎
（北品川五丁目第1地区）

1987年の「大崎ニューシティ」竣工が先駆けとなった大崎の新しいまちづくりの取り組みは、大崎に〝曙の時代〟をもたらしました。それは、江戸時代に茶の湯の文化が花開いた地などとして知られる大崎の豊かな歴史的土壌の上に、ものづくりのまちへと発展させたフロンティア達の熱意、さらに郷土大崎を愛し続ける人々の思いが結実して再生させた、ふるさとの〝夜明け〟でもありました。

豊かな歴史の里から

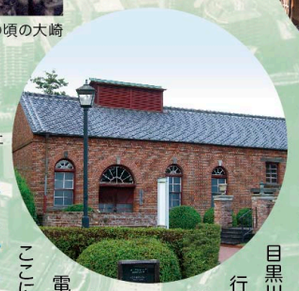
日本で初めての、茶室のテーマパークであったとされる「大崎苑」。松江藩松平家の大崎下屋敷に花開いた茶の湯の伝統文化は、大崎の文化的ルーツとしてこの地に生き続けています。また、たくあん漬けで名高い名僧沢庵が晩年を過ごした「東海寺」など、江戸時代からの豊かな歴史的土壌が、郷土の誇りとして大崎の精神的風土を形成してきました。

東海寺

大崎苑

日本のものづくりを牽引していた大崎

明治の頃、日本初の洋式ガラス工場（興業社）が、大崎に〝ものづくり産業発展の種子〟をもたらし、さらに、目黒川河畔から初めて日本の空へ飛んだ飛行船など、日本の製造業を牽引した人と技術が大崎に育まれていきます。また大正の頃には、大崎駅の隣接地に工場を創設、約120年にわたり、ものづくりのまち大崎の発展を支え続けた「明電舎」など、大崎の元気で輝かしい時代がここにありました。


興業社

子供達の元気な声が通りに弾んでいた昭和30年代の頃の大崎

将来への宿題を抱えて

やがて昭和の時代も後半を迎えて、大崎は試練の時代を迎えます。目黒川の汚染や工場公害、さらにオイルショック後の多くの工場移転により、〝おおさき真っ暗〟と揶揄される低迷期へ。これに対し品川区では、昭和53年に長期基本構想を掲げて再開発への取り組みを進めることとなります。

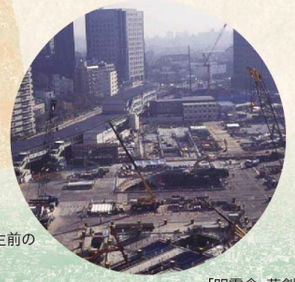
大崎の夜明けへ

1982年の「東京都長期基本計画」により大崎は副都心に指定され、87年には、先駆けの苦難の中で大崎ニューシティが竣工。さらに2002年の「都市再生緊急整備地域」指定により、大崎は新たな東京のものづくり産業をリードする拠点として、住みやすく、働きやすい21世紀の都市へと位置づけられたのでした。

日本初の飛行船

残そう、大崎のまちの記録

お子様やお孫さんの世代へ伝えていきたい大崎の記録づくりへ、ご協力ください。昔の大崎のまちやくらしの写真を、ぜひ、小誌編集部（裏表紙参照）まで…


大崎ニューシティ誕生前の大崎駅東口地区

「明電舎」草創期の頃の製造工場

■プロローグはここから…

昭和二年（昔の年で二十一才）に中延の方から文金高島田で人力車に乗ってお嫁に来ました。その頃のこのあたりは一面畑で、百反通りに面した商店街は、道幅も狭くて、綿屋（わたや）、髪結屋（かみゆいや）、おもちゃ屋、お菓子屋などなど戸越の方よりずっとにぎわっていました。通りの片側には、小川が流れていて、あわやさんの裏手には水車小屋もあってとてものどかでした。

芳水小学校通りのお稲荷さんの縁日は、百反通り両側に屋台が並び、六の日（今は二の日）には大変なにぎわいで、人力車も入れないほど人がたくさん集まり盛況でした。あと楽しみと言えば、なんと「大崎キネマ」という映画館や、劇場などもあって庶民のいこいの場所でした。

（昔の百反坂のお米屋さん 記）

同人誌「おばあさんの昔話」に載った昔日の大崎。輝いていた郷土の日々への、多くの人々の思いの集積から、大崎の長い夜明けの道程が始まっています。